

おわりに

昨今、盛んに農村地域の復活を期して6次産業化が検討課題にあがり、本市においてもこの可能性の模索を目的に調査を行うなかで、6次産業化のいくつかの重要なポイントを提示してきた。

6次産業化については、農業振興の起爆剤となる期待が寄せられているが、全国的に評価される6次産業化の取り組みを導入すれば農業振興の成功につながる、というのではなく、その地域の特性に応じた6次産業化とは何かを知ることが重要で、この地域版6次産業化を実践していくことが、正しい捉え方であると考えられる。本報告書で述べているとおり、6次産業化とは定まった成功方式があるものではない。したがって、本市の農業にはどのような特徴があり何が問題なのか、ここに適した6次産業化とはどのような可能性が考えられるのか、という視点に立つことが求められる。

また、6次産業化の活動とは、生産者の理念や理想の具現化や地産地消等の地域貢献という性質に加えて、一定の利益を追求する経済活動であるとの認識を持たねばならない。これは、生産者に経営的な思考・能力を要求するものであり、例外なく本市においても、6次産業化による事業の成功が決して容易なものではないことを意味している。

そして、本市の6次産業化推進に向けて求められる一歩として、生産者が自らの農産物を自らの手で売るという意識改革の必要性を提起している。つまり、生産者の自主性と所得向上が期待されるだけでなく、生産者が自らの農産物を購入する消費者を直接知り、語ることの意義も強調されるものである。

本調査は、生産者や農協を含めた研究会での議論を中心に進められたものであり、生産者側からの視点、農協からの視点、市側からの視点で現状と課題について認識を共有のものとしつつ、6次産業化についての理解をしながら、本市における6次産業化の可能性と問題点を整理した。今後の展開を考えるにあたっては、消費者側からの視点や個別具体的に地域にあるモノの使い方等を考えていくことが望まれる。

◎関係者一覧

○アドバイザー

松原 豊彦 立命館大学経済学部教授（草津未来研究所長）

○草津未来研究所

副 所 長 草津市 総合政策部 理事 林田久充

主任研究員 草津市 総合政策部 副部長 林沼敏弘

研 究 員 草津市 総合政策部 草津未来研究所主査 坂居雅史

研 究 員 草津市 総合政策部 草津未来研究所主任 西村周馬（担当者）

◎参考文献

- 今村奈良臣(1998年)『地域に活力を生む、農業の6次産業化-パワーアップする農業・農村』(地域リーダー研修テキストシリーズNO.5)、21世紀村づくり塾
- 後久博(2011年)『売れる商品はこうして創る-6次産業化・農商工等連携というビジネスモデル-』、ぎょうせい
- 後久博(2009年)『農商工連携による「新地域おこし」のススメ』、ぎょうせい
- 東北地域農政懇談会(2005年)『地域に生きる 農工商連携で未来を拓く』、農山漁村文化協会
- 木村伸男(2012年)『日本農業再生のポイント上 農業の基本問題と地域再生編』、農林統計出版
- JA 金融法務別冊(2011年)『農業の未来のために 6次産業化とJAの新たな役割』、経済法令研究会
- 木村修、吉田修、青山浩子(2011年)『新しい農業の風はモクモクからやって来る』、商業界
- 林雄介(2010年)『ニッポンの農業-ここが常識、非常識-』、ぎょうせい
- 東北産業活性化センター(2009年)『農商工連携のビジネスモデル-次代の地域経済活性化戦略』、日本地域社会研究所
- (社)全国農業改良普及支援協会(2011年)『6次産業化による農業・農村活性化手引き書!-普及の力は人・地域を変える-』
- ㈱野村アグリプランニング&アドバイザー(2012年)『6次産業化を推進するに当たっての課題の抽出と解決方法の検討』
- (社)中小企業診断協会大阪支部農業経営研究会(2011年)『中小企業診断士からの「大阪産野菜のブランド化による地域活性化への一提言」』
- (社)中小企業診断協会山梨県支部(2012年)『山梨県における6次産業化への取組みに関する調査研究』
- 農林水産省(2010年)『平成21年度版 農業白書』
- 滋賀県(2011年)『しがの農業・水産業新戦略プラン』
- 草津市(2009年)『草津市農業振興計画』

◎参考資料

6次産業化に関する研究会

1 目的

草津市の農水産業を取り巻く環境は、農産物の価格低迷や農業従事者の後継者不足問題など厳しい状況にあり、また、農産物のブランド化や地産地消の機会の構築といったこれからの課題も抱えております。そうしたなか、昨今、6次産業化なる手法に注目が寄せられているところ、本市においても地域農水産業を元気あるものにする方策を検討していく必要があります。

そこで、草津市における6次産業化の可能性を探るため、研究会を開催いたします。

2 概要

研究会では、1年目は草津市農水産業の現状・課題整理と6次産業化の可能性を探るべく、松原先生を招き、草津市はもとより、JA、農水産業に携わる生産者と議論し、6次産業化に関する理解を深めます。

3 研究会構成員

□研究会メンバー

	氏名	所属
1	松原 豊彦	立命館大学経済学部長、草津未来研究所所長
2	横江 喜代治	草津市野菜出荷連絡協議会会長
3	長谷川 清	草津あおばな館出荷協議会会長
4	奥野 町子	JA 草津市女性部ふれあい市部会長
5	吉村 康明	JA 草津市農業経済部部长
6	宇野 利明	JA 草津市農業経済部次長
7	岡本 一浩	滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課参事
8	林田 久充	草津市総合政策部理事兼草津未来研究所副所長
9	青地 正記	草津市産業振興部副部长（農林水産担当）
10	林 裕史	草津市産業振興部農林水産課G長

11	沖浦 真弓	草津市産業振興部農林水産課
12	湯浅 圭太	
13	林沼 敏弘	草津市草津未来研究所（事務局）
14	坂居 雅史	
15	西村 周馬	

4 研究会日程

	開催日時・場所	テーマ・議題
第1回	6月29日（金） 9：00～12：00 庁舎8階大会議室	松原先生による講演 「農水産業の6次産業化とは何か、どのように進めるのか」
第2回	8月23日（木） 9：30～11：30 庁舎101会議室	生産者、JA、市から見た草津市における農水産業の現状と課題の確認
第3回	10月5日（金） 14：00～16：00 庁舎502会議室	草津市における6次産業化の可能性について
第4回	11月15日（木） 9：30～11：30 北山田農事集会所	草津市における6次産業化の方向性について
第5回	1月24日（木） 15：00～17：00 庁舎502会議室	研究会のまとめ及び調査報告書案の報告

6次産業化に関する基礎調査報告書

2013年3月 発行

草津市役所 草津未来研究所

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

TEL 077-561-6009 FAX 077-561-2489

E-Mail kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp